

選挙を 見つめて

19あおもり

参院選①

21日の投票票へ向けて、各政党や候補者が舌戦を繰り広げている参院選。今回の連載で取材している6人に、参院選への関心や気になる政策などを聞いた。

◇ (本紙取材班)

今回の参院選について「そんなに盛り上がっているわけでは

ないと思う」と、むつ市でパン店を経営する中川礼子さん(59)は話す。「友達と選挙の話をする存在なのか自分自身が詳しく分



根本ひかるさん(19) 八戸・八戸学院大2年

増税なら生活豊かに

ることもない。参院議員はテレビの中の人たちで遠い人という感じがする」という。八戸学院大学2年の根本ひか

町が薄いかもしいない」。七戸町の運送会社社長、中村健さん

(65)は「選挙は全然盛り上がりがないと感じる。野党への期待が薄いように思う。国民は大きな変化を望んでいないのではないか」との見方を示した。

一方、各党が掲げている政策で特に気になっているものについて、中川さんは消費税増税や年金を挙げた。「年金制度の収支の状況やどのぐらい支給できるのかの見通しをしっかりと示し、各党が考えてほしい。消費税の増税は、この政策にはこの金額を使うと分かりやすく示してほしい。これまで何回か消費税は上がっているが、年金が潤ったわけでも子どもが増えたわけでもない。どのように使われてきたのかよく分からない」と

訴える。中川さんは六ヶ所村の近くに住んでいることから、本県選挙区で原子力政策の論戦が深まらないことが気がかり。「原子力関連の企業に勤めている人が何人もいる。原子力政策に反対する人たちは、そういう人たちの処遇をどう考えるのだろうか」と話した。

根本さんは「気になっているのは消費税増税と子どもの教育支援。税率が5%から8%に上がった時のことを考えると、身の周りの何かが充実した実感は少ない。増税するからには生活を豊かにしてほしい」とし「人物よりも党の公約を重視して投票先を決めたい」と語った。